Special Feature

相鉄・東急直通線

ついに全線開業！

相鉄・東急直通線 しゅん功開業式典＆開業レポート

3月18日午前5時08分、新横浜駅を出発する一番列車

3月5日に行われた「相鉄・東急直通線 しゅん功開業式典」

2023年3月18日、鉄道・運輸機構（JRTT）が「相鉄・東急直通線」として建設を進めてきた相鉄新横浜線・東急新横浜線の羽沢横浜国大・日吉間約10.0Kmが開業。開業に先立って行われた「しゅん功開業式典」と、開業日当日の様子を取材した。

文・写真：栗原 景（フォトライター）

2人の新横浜駅長の出発合図で一番列車が走り出す

「出発！」

「進行！」

3月18日午前5時08分、新横浜駅4番ホームに、相模鉄道と東急電鉄の2人の駅長による、息の合った喚呼が響きました。“プワーン”と電子ホーンが鳴り、相模鉄道21000系 浦和美園行き各停列車が、ゆっくりと動き出します。先頭部には、「祝開業 相鉄・東急新横浜線」の記念ステッカー。列車がトンネルの向こうに消えると、ホームでは拍手がわき起こりました。

相鉄・東急新横浜線が、ついに全線開業の日を迎えました。この路線は、都市鉄道等利便増進法に基づく神奈川東部方面線（相鉄・JR直通線、相鉄・東急直通線）のひとつで、相鉄・東急直通線として建設が進められた新しい鉄道路線です。今回の開業により、相模鉄道と東急電鉄を軸に、東京メトロ、埼玉高速鉄道、都営地下鉄、東武鉄道、さらには西武鉄道を含めた7社局14路線による、広大な鉄道ネットワークが完成しました。所要時間の短縮や乗換回数の減少など、交通の利便性や速達性の向上が期待されています。

相鉄・東急の新横浜駅長の出発合図

大勢の地域関係者が祝福した「しゅん功開業式典」

ここで、いったん時計の針を約2週間前に巻き戻します。3月5日、新横浜駅では開業に先立ち、工事の完了を記念して、「相鉄・東急直通線 しゅん功開業式典」が挙行されました。改札内と地下3階のスペースには紅白幕が飾られ、来賓や多くの関係者が集まり、相鉄・東急直通線の全線開業を祝いました。

式典では、主催者であるJRTTの河内隆 理事長（取材当時）、相模鉄道の千原広司 代表取締役社長、東急電鉄の福田誠一 代表取締役社長が挨拶。河内理事長は「厳しい施工状況のもとでの建設となりましたが、鉄道構造物として最新の技術を採用するなど創意工夫を重ね、無事に工事を完了することができました。地元の皆様方に末永く愛される存在となっていただきたい」と述べました。テープカットとくす玉開披は、相模鉄道のキャラクター「そうにゃん」と東急電鉄のキャラクター「のるるん」も参加し、くす玉からは「祝 相鉄・東急直通線 しゅん功開業」の垂れ幕が現れました。

式典会場は地下4階の4番ホームに移り、JRTTの職員から相模鉄道、東急電鉄それぞれの運転士と車掌、そして2社共同管理となる新横浜駅の2人の駅長へ、花束が贈呈されました。その後、式典招待者やメディア関係者を乗せた相鉄20000系の試運転列車が、2人の駅長の発車合図によって新綱島駅へ向けてスムーズに走り出した……と思う間もなく、わずか4分で新綱島駅に到着。到着後は各車両の乗客ごとに駅構内の見学会が行われ、東急5050系の試運転列車で新横浜駅に戻って、「相鉄・東急直通線 しゅん功開業式典」は滞りなく終了しました。

挨拶するJRTT河内理事長（取材当時）

出発を待つ相鉄 21000 系車両

雨の中、新横浜駅の外で開場を待つ人々

切符を買い求める人々

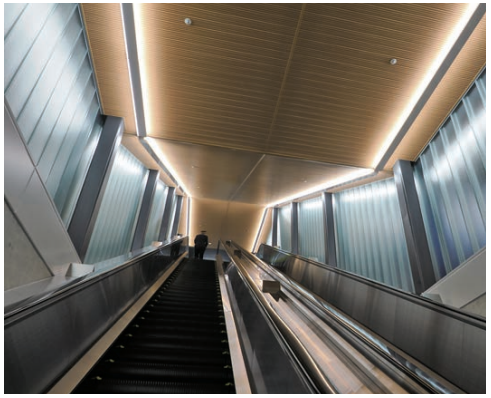
横浜市営地下鉄の改札口前に現れた新横浜駅

それから約２週間後の３月18日。相鉄・東急直通線は、相鉄新横浜線と東急新横浜線として、いよいよ開業の日を迎えました。午前３時、雨が降る中、横浜アリーナ方面の新横浜駅７番出口には、既に一番列車への乗車と開業記念切符の購入を待つ人の列ができています。この日は駅の開場予定時刻の４時30分を待たずに、３時30分に記念切符の購入を希望する人だけ一足先に構内へ案内されました。

４時30分、各出口のシャッターが開き、相鉄・東急新横浜線 新横浜駅が正式にオープンしました。一般のお客様が地下１階コンコースに続々と集まってきます。

新横浜駅は、横浜市営地下鉄ブルーライン（３号線）の改札通路を南北に挟む形で配置されています。工事中は仮囲いが設置されていましたが、この日初めて囲いが取り除かれ、地下鉄の改札と新横浜線の改札が接続されました。地下鉄の改札は、まさに新横浜線の改札の目の前。数十歩ほど歩くだけで、スムーズな乗り換えが可能です。南北に向かい合った新横浜線の改札は、北側が東急電鉄、南側が相模鉄道の管理で、デザインにも両社の特徴が現れています。東急電鉄側が、ライン照明を基本としたシンプルで明るいデザインであるのに対して、相模鉄道側は、相鉄グループの「デザインブランドアッププロジェクト」に合わせて壁に本物のレンガなどを使った落ち着いた雰囲気。待ち合わせ時などにも間違えにくく工夫されています。

新横浜駅からの開業一番列車は、４番ホームから発車する５時08分発の浦和美園行き。東急目黒線から東京メトロ南北線に入り、埼玉高速鉄道さいたまスタジアム線まで直通する列車です。栄誉ある一番列車に選ばれたのは、相鉄21000系21102編成。落ち着きあるYOKOHAMA NAVYBLUEに塗装され、高級感のあるフロントグリルを装備した目黒線乗り入れ用の車両です。



新横浜駅南改札付近にある２階へと続くエスカレーター（左）同北改札口（上）

❶新横浜駅ホームの東急車両　❷相鉄・東急新横浜線開業を祝うポスター　❸駅の利用客を出迎えるそうにゃんとのるるん　❹南改札にある地層をモチーフにしたシンボルウォール　❺横浜市営地下鉄との連絡通路　❻駅構内の案内看板

４時48分、４番ホームで出発式が始まりました。主催者挨拶では、相模鉄道の千原社長が「心待ちにされていた皆様の思いと期待を乗せて、埼玉方面まで走り抜けてほしい」。また、東急電鉄の福田社長は「今日からが本当のスタート。相模鉄道様と力を合わせ、安全安定輸送の確保に努めます」と述べられました。また、来賓として挨拶したJRTTの河内理事長も「私たちが精魂込めて建設した相鉄・東急直通線が、沿線住民の方々に末永く愛されて地域の発展に寄与することを願います」と述べ、開業を祝いました。

主催者・来賓挨拶に続いて両社の社長から２人の新横浜駅長へ花束が贈呈され、千原社長、福田社長、河内理事長によるテープカットが行われると、いよいよ発車時刻が近づいてきました。一番列車に続々と乗客が乗り込み、ホームも電車を見送る人で混雑しています。相模鉄道の丸山雄二駅長と東急電鉄の金子進駅長が所定の位置につき、出発合図を行います。

５時08分。ついに、その時がやって来ました。

ホームに発車メロディーが流れ、扉とホームドアが閉まると、一瞬ホームが静まりかえりました。

「出発！」「進行！」

こうして、一番列車は無事に新横浜駅を発車していきました。５時10分には奥沢発海老名行きの初列車が日吉駅を、５時35分には海老

関係者らの拍手で見送られる一番列車

新横浜駅のコンコースに掲げられた開業を祝う大垂れ幕（左）、記念乗車券を買い求める人たちの行列（上）

名発小川町行き特急が羽沢横浜国大駅をそれぞれ発車。相鉄・東急新横浜線の営業運転が始まりました。

東海道新幹線との連携で関西も近くなる

一番列車が発車しても、新横浜駅のにぎわいはまだまだ続きます。5時44分に溜池山王からの各駅停車、続いて5時48分に渋谷からの急行が到着すると、キャリーケースなどの大きな荷物を持った乗客が大勢降りてきました。

「東海道新幹線にお乗り換えのお客様は、5A出口へお越しください」

駅員が案内を繰り返します。今日から新横浜駅6時03分発新大阪行き「のぞみ491号」が土曜日と月曜日を中心に運行され、渋谷5時23分発湘南台行き急行や海老名5時14分発特急小川町行きが接続します。特に相鉄線沿線からは、初電に乗っても6時前に新横浜駅に到着することは困難でしたが、新横浜線開業後は余裕をもって到着できるようになり、乗り換えも楽になりました。

JR新横浜駅も、新横浜線開業のお祝いムードに包まれています。駅コンコースには開業を祝う大型の垂れ幕が飾られ、大勢の人が写真を撮っています。改札口では「のぞみ491号」の記念カードが配られ、ホームでは駅員がお祝いの横断幕を掲げて出発を祝う中、大勢の乗客を乗せた「のぞみ491号」は定刻に新横浜駅を発車していきました。

新横浜線の開業によってにぎわいが生まれる

8時を過ぎると、今度は家族連れの姿が増えてきました。開業を記念する「広域ネットワーク拡大記念乗車券 7社局セット」の販売には、雨の中長い行列ができ、整理券が配られるほどの人気となりました。

次は新横浜線の電車に乗って、隣の羽沢横浜国大駅へ移動します。以前は路線バスを利用して約20分かかりましたが、今日からはたったの4分。駅前では高層住宅の建設が進んでおり、横浜国大生の利用も増えました。

❶新横浜駅交通広場で行われたオープニングセレモニーの様子 ❷今回の開業にあわせて新設された「新横浜駅始発「のぞみ491号」新大阪行の発着標 ❸「のぞみ491号」記念カード

羽沢横浜国大駅の改札口

鶴見川をイメージした新綱島駅のホーム壁

デザインウォールの前には、地元自治会や関係者など、地域の人々から送られた花が飾られていました。

新綱島駅周辺では都市計画による再開発事業が進められており、駅周辺の整備はこれからが本番です。

2006年に、都市鉄道等利便増進法に基づく営業構想として相鉄・東急直通線が国土交通省に申請されてから17年。ついに開業の日を迎えた相鉄・東急新横浜線は、横浜市と神奈川県はもちろん、首都圏の人々の暮らしやビジネスに欠かせない路線として、これから大きく発展していくことでしょう。

新綱島駅の駅名標

新綱島駅の東急新横浜線改札口

新綱島駅地下1階のデザインウォールは、かつて全国有数の産地だった桃の木の木立がモチーフ